

都市再生整備計画(第1回変更)

たかはた
高畠地区

やまがた たかはたまち
山形県 高畠町

令和7年3月

事業名	確認
都市構造再編集中支援事業	<input checked="" type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(社会資本整備総合交付金)	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業(防災・安全交付金)	<input type="checkbox"/>
まちなかウォーカブル推進事業	<input type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	山形県	市町村名	たかはたまち 高畠町	地区名	たかはた 高畠地区	面積	18.6 ha
計画期間	令和 5 年度 ~ 令和 9 年度	交付期間		令和 5 年度 ~ 令和 9 年度			

目標

- 大目標: 魅力のある拠点空間の形成
 目標1: 行政機能の集約と町民の新たな交流拠点を創出する
 目標2: まちなかにぎわい創出

日: 令和7年3月

- 都市全体の再編方針(都市機能の拡散防止のための公的不動産の活用の考え方を含む、当該都市全体の都市構造の再編を図るための方針) ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。
 ・本町は奥羽の山なみ深くに源流をもつ屋代川・和田川の扇状地に拓けた稔り豊かなまちである。また、日本のアンデルセンと呼ばれた浜田広介先生の記念館「浜田広介記念館」、「日向洞窟」や「大立洞窟」など多くの国指定史跡が点在する歴史と文化が調和したまちである。
 ・町を東西に横断する「まほろばの緑道」はサイクリングロードとしても親しまれており、桜シーズンを中心に多くの来訪者を迎える観光資源となっている。また、緑道内高畠広場には地元産の高畠石で建築された国指定文化遺産である「旧高畠駅舎」も観光の要所となっている。
 ・平成31年3月に「第6次高畠町総合計画」を策定し、町のめざす将来像である「ゆきかう「またね∞」あふれる「うふふ∞」」のもと様々な交流によって生まれるつながりによって活気に満ち、住む人がしあわせにあふれるまちを目指している。

まちづくりの経緯及び現況

- ・本町ではこれまで、行政施設等が集積している高畠地区とJR高畠駅が立地する糠野目地区の2地区を中心に用途区域を設定し、市街地を形成してきた。
 ・高畠地区は行政の中心地として、糠野目地区は町の交通の玄関口としてそれぞれまちづくりを進めてきた。しかし、近年は施設の老朽化や人口減少が進行しているため、市街地を中心にまちの活力が低下している。

課題

- ・老朽化した公共施設の維持管理及び機能不足解消
 ・中心市街地のにぎわいの向上

将来ビジョン(中長期)

- 【高畠町第6次総合計画】(平成31年3月策定)
 ・移住や定住者を増やすための環境づくりを推進する。
 ・道路や公共施設などの安心な暮らしを支える公共インフラの整備を進め、災害に強いまちを推進する。

【第2次高畠町都市計画マスター プラン】(令和2年3月策定)

- ・都市づくりの基本目標として「活気に満ちた生活が実現できる持続可能なまちづくり」を将来像として設定している。
 ・高畠地区は将来像として「人と人がつながり、にぎわいのある未来を創る」と位置付け、まちなか居住を推進し、コンパクトなまちづくりを目指すことを方針としている。
 ・都市施設の方針として、集積された公共施設を町行政機能の拠点区域として維持することとし、住宅地については利便性が高い商業地と隣接させることとしている。

都市構造再編集中支援事業の計画 ※都市構造再編集中支援事業の場合に記載すること。それ以外の場合は本欄を削除すること。							
都市機能配置の考え方 ・都市機能誘導区域については、役場庁舎、中央公民館、病院等の都市又は地域全体をサービス対象とする施設の維持を図る。 ・居住誘導区域については、日常生活を支える身近な生活利便施設の維持・誘導を図る。							
都市の再生のために必要となるその他の交付対象事業等							
目標を定量化する指標							
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基 準 年 度	目 標 値	目 標 年 度
役場周辺の公共施設利用者数	人／年	町役場周辺の公共施設(公民館・図書館・体育館)の利用者数	まちなかの新たな交流拠点等の整備による、まちなかのにぎわいや文化交流、コミュニティ活動の向上の目標達成状況を計る指標とする。	68,000人	R3	70,000人	R9
町内観光者数	人／年	町へ来訪した観光客数	まちなかのにぎわいの創出の目標達成状況を計る指標とする。	53.3万人	R3	120万人	R9
移住相談件数	件	町への移住について企画財政課に問い合わせのあった件数	あらたな交流拠点の創出の成果及びまちなかのにぎわい創出の目標達成度について、主に町外からの評価を計る指標とする。	60件	R3	120件	R9

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
・町民の新たな交流拠点として地域交流センターを整備し新庁舎との機能複合化を図る。	【基幹事業】(高次都市施設 地域交流センター) 高畠町地域交流センター(仮称)整備事業 【基幹事業】(地域生活基盤施設 地域防災施設) 自家用発電設備
・広場の新設整備を行い、地域交流センター等と一体的の新たな賑わいの場を創出する。 ・公共施設へのアクセスが容易となる町道を新設し、利便性の向上を図る。	【基幹事業】(地域生活基盤施設 広場) にぎわい広場の整備 【基幹事業】(仮称)町道新庁舎通り線 【基幹事業】(仮称)町道新庁舎東西線

その他

目標を達成するために必要な交付対象事業等に関する事項(都市構造再編集中支援事業)

樣式(1)-④-1

交付対象事業費	1,047.0	交付限度額	523.5	国費率	0.5
---------	---------	-------	-------	-----	-----

(金額の単位は百万円)

基幹事業	事業	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費		交付対象事業費	費用便益比B/C	
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度		うち官負担分	うち民負担分			
道路	(仮称)町道新序舎通り線	高畠町	直	213.5m	6	9	6	9	509.9	509.9	509.9	509.9	509.9	-	
令和7年3月	(仮称)町道新序舎東西線	高畠町	直	217.5m	8	9	8	9	60.3	60.3	60.3	60.3	60.3	-	
公園															
古都保存・緑地保全等事業															
河川															
下水道															
駐車場有効利用システム															
地域生活基盤施設	緑地、広場	(仮称)にぎわい広場	高畠町	直	848m ²	4	7	6	7	28.7	28.7	28.7	28.7	-	
	地域防災施設	非常用発電機	高畠町	直	1基	4	6	5	6	7.3	7.3	7.3	7.3		
高質空間形成施設															
高次都市施設地域交流センター	高畠町地域交流センター(仮称)	高畠町	直	611m ²	4	6	5	6	435.8	435.8	435.8	435.8	435.8	-	
観光交流センター															
テレワーク拠点施設															
子育て世代活動支援センター															
複合交通センター															
合計										1,042.0	1,042.0	1,042.0	0.0	1,042.0	-

...A

提案事業														
事業	細項目	事業箇所名	事業主体	直／間	規模	(参考)事業期間		交付期間内事業期間		(参考)全体事業費	交付期間内事業費	うち官負担分	うち民負担分	交付対象事業費
						開始年度	終了年度	開始年度	終了年度					
地域創造支援事業														
事業活用調査	事業効果分析調査	高畠町	直			9	9	9	9	5.0	5.0	5.0		5.0
まちづくり活動推進事業														
合計										5.0	5.0	5.0	0.0	5.0

5.0 ... E

0

都市再生整備計画の区域

様式(1)-⑥

高畠地区(山形県高畠町)

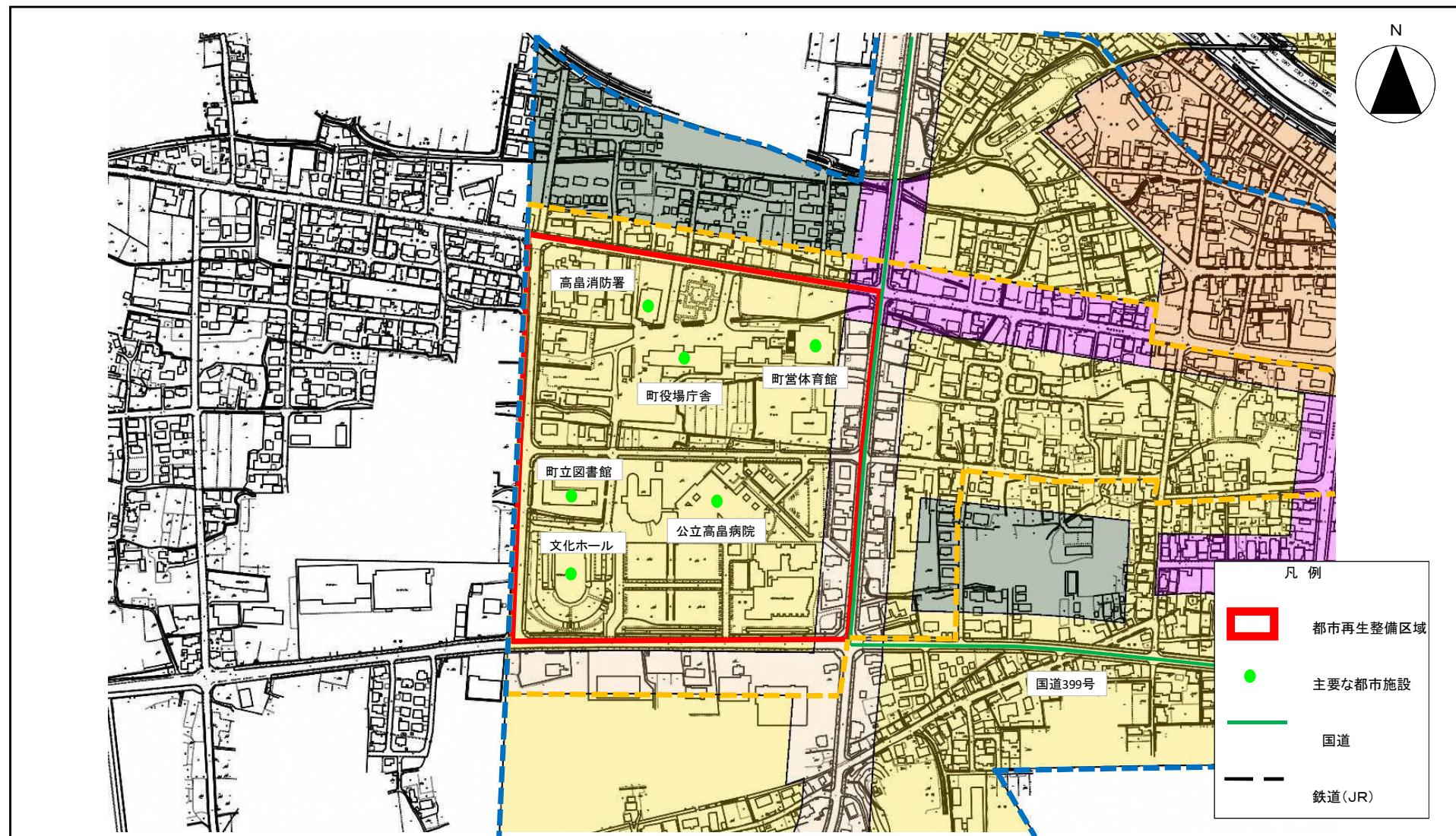
面積

18.6

ha

区域

高畠町大字高畠の一部



高畠地区(山形県高畠町) 整備方針概要図(都市構造再編集中支援事業)

目標	魅力ある拠点空間の形成 ①行政機能の集約と町民の新たな交流拠点を創出する ②まちなかのにぎわいを創出	代表的な指標	役場周辺の公共施設利用者数 (人／年)	68,000人 (令和3年度)	→	70,000人 (令和9年度)
			町へ来訪した観光客数 (人／年)	53.3万人 (令和3年度)	→	120万人 (令和9年度)
			町への移住についての問い合わせ件数 (件)	60件 (令和3年度)	→	120件 (令和9年度)

